

# 行政保健師の事業化技術を学ぶ —行政・国保連合会・大学の協働による保健師教育—

○ 長谷川美香 北出順子 夏梅るい子 (福井大学)  
山本英子 幸光里美 山口友加里 中西 悠 繁田祐香 (美浜町)  
柏谷美有紀 (福井県国民健康保険団体連合会)



2023年5月15日 地域診断演習にて。(撮影 北出)



## I はじめに

2020年度から新しい「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」が適用されている。  
これに伴い「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」も改正され、「地域の健康水準を高める**事業化**」が追加された。  
しかし大学内での講義や演習だけでは保健事業等の理解にとどまり、公務員の醍醐味ともいえる実態把握から事業企画に至る、一連の政策形成過程を学生に理解・習得させることは難しい。  
本学においても、これまで試行錯誤しながら講義・演習を行ってきたが、難しさや限界を感じてきた。  
そこで、行政及び国保連合会と協働し、地域診断と合わせた事業化演習を試みた。



お昼は、美浜町の健康づくり政策である「げんげん運動」の協賛店が販売する「げんげん弁当」をいただきました



## II 目的

地域診断と事業化演習において、行政・国保連合会・大学、それぞれが果たした役割を明らかにする。



## III 方法

### 1. 研究方法

参与観察法にて実施した。

- ① 美浜町が発行した計画・資料等、また国保連合会から得た資料を収集・分析した様を記述した。
- ② フィールドワーク、及び役場で開催した報告会がもたらした内容を記述した。

### 2. 分析方法

行政・国保連合会・大学、それぞれが果たした役割に注目して分析を行った。



## IV 結果

### 1. 事前準備(学内演習)

「公衆衛生看護展開論 I」において、美浜町から提供を受けた行政計画書(第五次美浜町総合振興計画、美浜町町政要覧、美浜町地域福祉計画、健康みはま21後期計画、美浜町介護保険事業計画)、広報みはま、健康福祉課ならびに子ども・子育てサポートセンターにおける令和4年度の事業結果等である。さらに、福井県国保連合会より、美浜町の了承のもと提供を受けたデータも分析した。学生たちは、これらより、母子保健・成人保健・高齢者保健、それぞれ2グループに分かれて、健康課題を検討し、仮説を設定した。



### 2. フィールドワーク(美浜町役場)

統括保健師から美浜町の健康づくり・母子保健・高齢者保健等の概要説明を受けた後、仮説の検証をするために、保健師への聞き取りを行い、健康課題を確定した。

### 3. 学内演習

「公衆衛生看護管理論」にて、フィールドワークから導き出した健康課題と、解決に向けた事業案づくりを行った。

### 4. 報告会(美浜町役場)

美浜町役場において報告会を行った。役場からは、町長、副町長、こども政策統括幹、健康福祉課長、こども未来課内子ども・子育てサポートセンター保健師、健康福祉課保健師が出席し、コメントをもらった。



## V 考察

役場保健師は、日頃の仕事で得る住民の実態(意見・暮らしの実態・健康観など)と、保健師として捉えていることを学生に伝えていた。学生からも、保健師からの聞き取りを経て健康課題を修正できたこと、地域と地域住民を知ることの重要性を学べたという声があった。

国保連合会は、行政の要請に基づき、データ整理と提供を行った。初学者である学生が理解できるデータを得られたことは、国保連の力に拠るところが大きい。今後はデータの読み取り演習なども協働して行っていきたい。

大学は、地域診断から政策立案までの講義・演習はもちろんのこと、美浜町・国保連との相談・依頼・協議までの一連の企画の中心を担った。これは福井県国保連が市町保健師に対して実施していることと同様であり、本演習は保健師の事業化技術を学ぶのみにとどまらず、就職や現任教育への架け橋となっていたと考えられる。

